

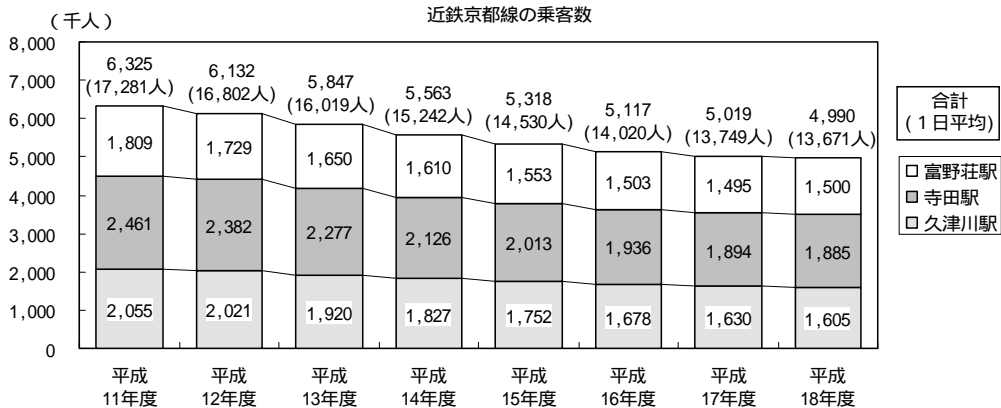
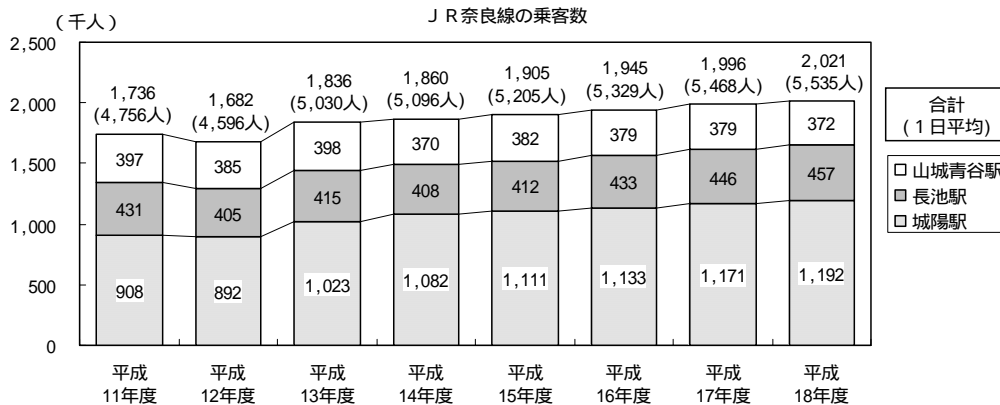
第8節 駅周辺整備を推進し公共交通対策を充実する

現状と課題

駅周辺においては、文化や交流、買い物などの諸機能を拡充し、特色ある市街地の形成を図る必要があります。シビックゾーンとして位置付けられている寺田駅周辺については、「寺田駅前まちづくり協議会」からまちづくり構想の提言を受け、今後、市において整備手法や整備内容などについて検討を進めていく必要があります。また、長池駅周辺については、都市計画道路長池駅木津川右岸公園線と駅北側の駅前広場およびJR線を横断し、南北を連絡する自由通路の整備に取り組んでいますが、国道24号からのアクセス道路が整備されていないことなどから地域の中心的機能が発揮できていない状況にあり、今後は、駅周辺整備の具体化に向け地域と協働した取り組みが必要です。

一方、公共交通については、JR奈良線において、第1期複線化事業の完了などにより全体的には利便性の向上が図られていますが、城陽駅と長池駅、山城青谷駅間で利便性の格差が生じています。また、本市において、特に若年層を中心として、住み続けたいと思える魅力あるまちづくりを進めていくためには、近鉄京都線における急行列車の停車による利便性の向上が大きな課題となっています。

路線バスについては、寺田駅とプラムイン城陽を結ぶ路線、市内北東部を循環する路線および東部の鴻ノ巣台地域と西部の水主地域を結ぶ路線を開設し、バス・タクシーターミナルの整備に取り組んできており、今後はバスの利用促進を図る必要があります。



（資料）西日本旅客鉄道株式会社、近畿日本鉄道株式会社

基本方針

地域住民との協働による寺田駅周辺や長池駅周辺の整備により、地域の顔となる特色ある市街地の形成をめざします。

市内各駅においても駅に通じる府道の整備を要請し、駅利用者の安全性や利便性を向上させ、駅周辺の良好な交通環境の形成をめざします。

J R 奈良線および近鉄京都線の便数の増加や高速化などにより鉄道利用の利便性の向上をめざします。

高齢者や障害のある方が路線バスなどの公共交通を利用しやすくなることにより、健康で生きがいの持てる生活の実現と環境にやさしい交通の実現をめざします。

まちづくり指標

| まちづくり指標名 | 説明 | 単位 | 現状値 | 5年後の | 10年後の | めざすべき |
|----------------------------------|----------------|----|-------------------------|---------|---------|-------|
| | | | | 目標 | 目標 | |
| 鉄道を手軽に利用できると感じている市民の割合 | まちづくり市民アンケート結果 | % | 69.9 (H18) | 80 | 90 | 100 |
| 路線バスを手軽に利用できると感じている市民の割合(市内の3路線) | まちづくり市民アンケート結果 | % | 26.0 (H18) | 28 | 30 | 100 |
| 路線バス利用者数(市内の3路線) | 年間総利用者数 | 人 | 105,300 (H18 見込み) | 113,400 | 121,500 | |

主な施策の展開

(1) 駅周辺整備の実施

寺田駅においては、寺田駅周辺整備事業について地域住民と協働で整備手法などを決定し、その事業化を図ります。また、長池駅においては、駅南北を結ぶ自由通路の整備を行うとともに国道24号から駅南側までの道路整備に取り組み、地域の中心地区として整備し、駅周辺地域の活性化に努めます。

また、市内各駅においても駅に通じる府道の整備を要請し、駅利用者の安全性や利便性を向上させ、駅周辺の良好な交通環境の形成をめざします。

(2) 鉄道利用者の利便性の向上

J R 奈良線の第2期複線化工事や寺田駅への急行停車の実施により電車の増便と高速化を図り、市民の鉄道利用の利便性の向上をめざします。

(3) 交通弱者の移動手段の確保

高齢者などの交通弱者の移動手段として路線バスの利便性を高め、その利用促進に努めます。

市民まちづくりワークショップからの提言

市民の役割(例示)

バスが利便性の高い移動手段となるよう、路線や運行本数などを住民が一体となって考える。

環境に優しい公共交通の役割を理解し、積極的に利用する。

事業者は、路線の運行、状況、配置をわかりやすく情報提供する。